

岩手県総合計画審議会「若者・女性部会」の開催結果について

1 部会の概要

(1) 設置の目的

若者や女性の視点から本県の現状や課題、今後の取組の基本的な方向性等について議論し、得られた意見などを次期アクションプラン等の策定及びその推進に生かしていくこと。

(2) 委員構成

8 名（別紙 委員名簿のとおり）

(3) 各回のテーマ等

	テーマ	開催日
第 1 回	地方創生10年の成果と課題	令和 7 年12月22日
第 2 回	一人ひとりの希望の実現	令和 8 年 5 月15日
第 3 回	希望が実現できる社会	令和 8 年 5 月27日
第 4 回	議論の総括	令和 8 年 6 月18日



■ 部会の議論で交わされた主な論点

- ・ 選択肢不足（仕事・情報）
- ・ 生きにくさ（地域社会・文化）
- ・ 将来不安（経済・ライフプラン）

体系化

希望の実現

希望の後押し

《可能性の拡大》 挑戦できる 等

《安心できる》 失敗しても大丈夫 等

①つながりの拡大

②変化に適応

従来の社会（像）

- ・ 県内で挑戦・成長できるイメージが十分に持たれていない。
- ・ 奨学金負担や低賃金、将来の不安を背景に、「やりたいこと」よりも「失敗しない選択」を優先する傾向。
- ・ 固定的価値観や無意識の思い込みが、個人の希望や選択を狭めている。
- ・ 県外進学・就職後は、岩手の情報や地域との接点が減少し、地元を選択肢として考える機会が少なくなっている。
- ・ 岩手で挑戦している人や多様な働き方・暮らし方のロールモデルに触れる機会が少ない。
- ・ 地域との関わり方が「定住」中心に捉えられがち。
- ・ 人口減少下では、従来型の社会・働き方・地域運営では持続が難しい。
- ・ 価値観やライフスタイルの変化に、地域や企業側が追いついていない。
- ・ 地域における過干渉が、生きづらさや戻りにくさにつながっている。

若者・女性が特に重視する視点

- ▶ 個人の選択や価値観を認め合う社会
- ▶ やりたいことができ、失敗しても大丈夫な環境
- ▶ 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に対する気づき・見直し、ジェンダーギャップの解消

→ 希望を制約する要因を洗い出し、希望を後押しする社会へ。

第1回 地方創生10年間の成果と課題を共有し、若者・女性の現状認識を確認

▶ 若者・女性の現状認識

- ・働き方や定住観など個人の意識・行動が多様化
- ・県外における岩手とのつながりの希薄化
- ・人口減少など社会構造の変化を踏まえた施策の検討が必要

施策の方向性に関する観点

希望の後押し
つながりの拡大
変化に適応するアプローチ

第2回 希望を制約する要因を洗い出し、議論の内容を体系化

▶ 希望を制約する主な要因

- ・選択肢不足（仕事・情報）
- ・生きにくさ（地域社会・文化）
- ・将来不安（経済・ライフプラン）

▶ 「希望の後押し」に必要な特に重視すべき視点

① つながりの拡大 ② 変化に適応するアプローチ

▶ 希望の後押しには、

「可能性の拡大」と「安心」の両輪が不可欠

体系化

希望の実現

希望の後押し

《可能性の拡大》挑戦できる等

《安心できる》失敗しても大丈夫等

① つながりの
拡大

② 変化に
適応

第3回 希望を後押しするための社会の在り方について議論

▶ 希望を後押しする社会に必要な視点

- ・多様な生き方や価値観が認められ、「こうあるべき」に縛られない
- ・やりたいことができ、たとえ失敗しても受け皿がある
- ・行政・企業・地域が、若者・女性の価値観やライフスタイルの変化に対応できる

希望の実現

希望の後押し

現状・課題

- 地元には「やりたい仕事がない」という認識が、県外流出の要因にもなっており、県内で挑戦・成長できるイメージが十分に持たれていない。
- 若者・女性の間では、奨学金負担や低賃金、将来の不安を背景に、「やりたいこと」よりも「失敗しない選択」を優先する傾向がある。
- 結婚・出産・働き方などに関する固定的な価値観や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が、個人の希望や選択を狭めている。

若者・女性が望む社会

- ▶ やりたい仕事や挑戦したい活動が、将来の選択肢としてイメージできる。
- ▶ 挑戦やキャリア形成に失敗しても、生活が維持でき、安心してチャレンジできる。
- ▶ 希望や価値観を大切にしながら、多様な生き方・働き方を選択できる。

希望の後押し

つながりの拡大

現状・課題

- 県外進学・就職後は、岩手の情報や地域との接点が減少し、地元を選択肢として考える機会が少なくなっている。
- 岩手の企業や地域情報は、自ら探しに行かなければ届きにくく、知らないまま選択肢から外れてしまっている。
- 岩手で挑戦している人や多様な働き方・暮らし方のロールモデルに触れる機会が少ない。
- 地域との関わり方が「定住」中心に捉えられがちで、多様な関わり方の受入れが十分ではない。

若者・女性が望む社会

- ▶ 企業や地域の魅力が岩手への関心層・潜在層に届きやすく、自然に岩手が選択肢として認識される。
- ▶ 県内で働く人や地域で活動する人、県外から関わっている人など、多様なロールモデルに触れることができる。
- ▶ 定住だけではなく、関係人口や副業など、地域との多様な関わり方が尊重される。

希望の後押し

変化に適応するアプローチ

現状・課題

- 人口減少が進行する中で、従来型の社会・働き方・地域運営のままでは持続が難しくなっている。
- 若者・女性の価値観やライフスタイルの変化に対し、地域や企業側の受け止めが十分に追いついていない。
- ジェンダーや役割意識に基づく、無意識の思い込みが依然として存在し、多様な生き方や希望を抑制している。
- 地域の人間関係における過度な干渉が、生きづらさや戻りにくさにつながっている。

若者・女性が望む社会

- ▶ 社会経済情勢や価値観の変化を捉え、行政、企業、地域など社会全体で多様な生き方・働き方が受け入れられる。
- ▶ 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に対する気づき・見直しやジェンダーギャップの解消により、若者・女性が「生きやすい」と感じられる。
- ▶ 地域との関係性において、つながる安心感と、干渉され過ぎない適度な距離感の両方が大切にされている。

【別紙】 委員名簿（敬称略）

	氏名	主な所属団体等	県外在住
1	牛崎 志緒 (部会長)	ジョブカフェいわて	
2	西條 匡杜	地域志向型インターンシップネットワークinいわて	○
3	佐藤 柊平 (副部会長)	一般社団法人いわて圏	
4	山影 峻矢	manordaいわて株式会社	
5	山屋 理恵	岩手県男女共同参画センター	
6	櫻井 陽	一般社団法人いわて地域おこし協力隊ネットワーク	
7	藤 瑠杏	岩手わかすフェス実行委員会	○
8	吉田 知世	岩手わかすフェス実行委員会	○